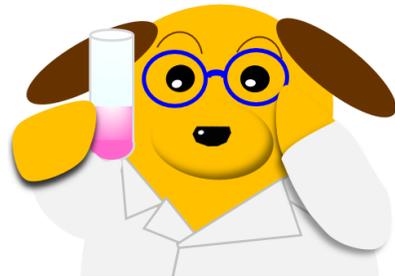


特集

化粧品香料の輸入



☆化粧品香料の輸入数量及び金額は増加傾向！
 ☆港別では東京港の輸入がトップ！
 ☆シンガポール、中国からの輸入が拡大！



令和3年6月16日
東京税関



はじめに

私たちが毎日のように使っている石けんやシャンプー、洗剤、芳香剤などの多くに香料が使用されています。これら香りの製品や化粧品(「化粧品」)に使用される香料は「化粧品香料(フレグランス)」と呼ばれ、食品などに使用される「食品香料(フレーバー)」とは区別されています。右表1には、化粧品香料の主な用途を挙げてみました。化粧品香料には、香りを加えることによって製品の付加価値を高めたり、原材料のにおいを抑えたり(マスキング)するはたらきがあり、その用途は多岐にわたっています。日本でのファインフレグランス製品の市場規模は欧米諸国に比して小さく、化粧品香料の用途は、化粧品、トイレタリー製品、ハウスホールド製品が多くを占めていると言われています。

化粧品香料は、私たちが直接目にする機会は少ないものではありませんが、実はとても身近なものなのです。

今回の特集では、化粧品香料を取り上げます。

本特集の「化粧品香料」は、輸入統計品目番号3302.90-000に分類されるもので、「香気性物質の混合物及び一以上の香気性物質をもととした混合物(アルコール溶液を含むものとし、工業において原材料として使用する種類のものに限る。)」並びに香気性物質をもととしたその他の調製品(飲料製造に使用する種類のものに限る。)」から「食品工業又は飲料工業において使用する種類のもの」を除いたものです。

(表1)化粧品香料の主な用途

製品区分	主な用途
ファインフレグランス製品	香水、オードトワレ、コロンなど
化粧品、医薬部外品	化粧水、乳液、ファンデーション、口紅、リップクリーム、スタイリング剤、ヘアカラー剤、パーマ剤、制汗剤、脱毛剤、殺虫剤、防虫剤など
トイレタリー製品	石けん、ボディソープ、ハンドソープ、シャンプー、コンディショナー、入浴剤など
ハウスホールド製品	粉末洗剤、液体洗剤、柔軟剤、漂白剤、台所用洗剤、トイレ用洗剤、浴室用洗剤、室内芳香剤、車用芳香剤など
その他	インク・塗料、燃料など

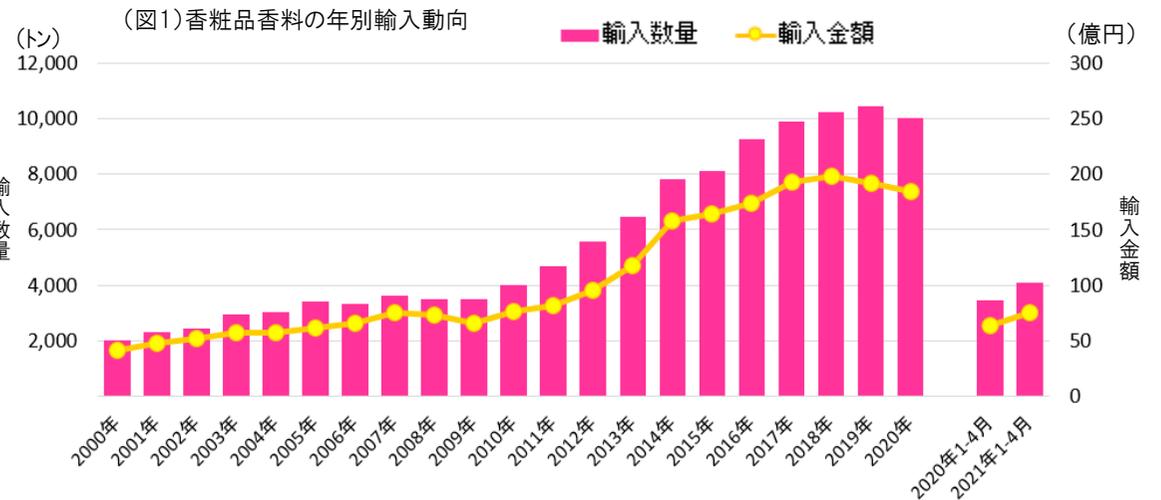
年別輸入動向

右図1は、2000年以降の化粧品香料の年別輸入動向です。

2020年の輸入数量及び金額は、2000年と比較すると、それぞれ約5倍、約4.5倍になりました。わが国において、化粧品香料を使用する化粧品、トイレタリー製品、ハウスホールド製品の生産が拡大していることが、化粧品香料の輸入の増加に影響しているのではないかと考えられます。

ただし、2020年は、2019年と比較すると、輸入数量及び金額ともにやや下回りました。業界によれば、この減少要因としては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う消費者の外出機会減少や海外からのインバウンド需要の消失により一部の製品の販売が伸び悩んでいること、また、物流の遅延などが影響している可能性が考えられています。一方では、衛生面への配慮により生産量（化粧品香料の使用量）が増加したとみられる製品もあり、そのバランスが輸入動向に表れているのではないかとのことでした。

参考までに、国内における化粧品香料の製造数量は、ほとんど横ばいとなっています(右図2参照)。



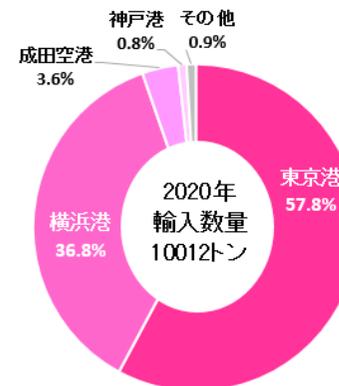
資料：日本香料工業会統計データを元に作成。

港別動向

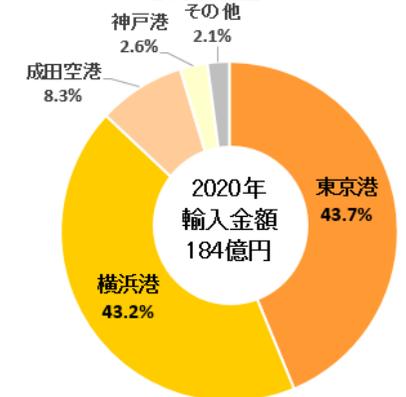
2020年の港別輸入実績では、東京港が輸入数量及び金額ともに全国トップとなっています。

続いて、横浜港、成田空港、神戸港の順に多く、これらの4港で全体の輸入数量及び金額の9割を超えています。大手香料会社の本社などが関東地区に多いことが関係していると考えられます。

(図3) 港別輸入数量シェア



(図4) 港別輸入金額シェア

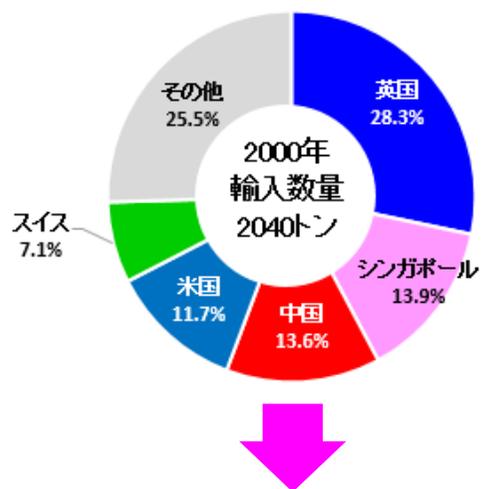


国別動向

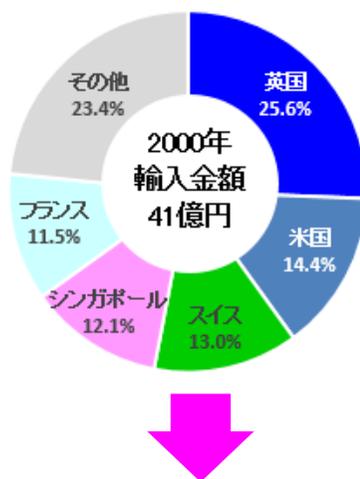
輸入された香粧品香料の原産国について見てみましょう。

2000年及び2020年における原産国別の輸入数量シェアは図5及び図7、輸入金額シェアは図6及び図8のようになります。

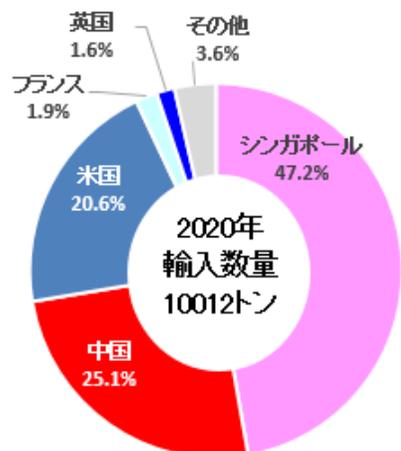
(図5)2000年の国別輸入数量シェア



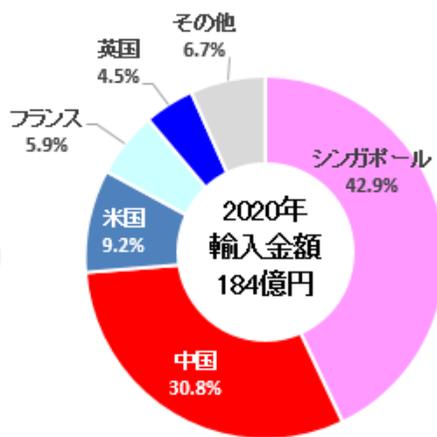
(図6)2000年の国別輸入金額シェア



(図7)2020年の国別輸入数量シェア



(図8)2020年の国別輸入金額シェア



左図5及び図7、左図6及び図8を比較してみましょう。

2000年には輸入数量及び金額ともにトップだった英国のシェアがその後減少し、2020年にはシンガポールや中国のシェアが増加しました。これら2か国で輸入数量及び金額全体の7割を超えています。業界によれば、国内及び海外香料会社の多くが、シンガポールと中国に大規模な製造拠点を配備して生産能力を強化するようになったことによるものとのことです。このうち、日本を含むアジア太平洋地域の市場向けの香粧品香料の供給拠点多いシンガポールのシェアが特に増加しているとのことです。

おわりに

わが国では、欧米諸国と比較すると、強い香りは敬遠される傾向があったため、従来から「無香料」の製品や、香りがあっても「微香性」をうたう控えめな香りが好まれていました。しかし、近年では、はっきりした香りや、個性的な香りを求める傾向もあるようです。また、悪臭を消すことを目的に使用する「消臭」製品の中には、よい香りを含む成分で悪臭の元となるにおいの分子を包み込むしくみを持つ製品もあるなど、近年の清潔志向は、香粧品香料がより広く利用される理由のひとつとなっているようです。



化粧品香料の輸入数量・金額動向(年別)

(単位 数量:トン 金額:億円)

年	輸入数量	輸入金額
2000年	2,040	41
2001年	2,310	48
2002年	2,432	52
2003年	2,966	57
2004年	3,032	58
2005年	3,399	62
2006年	3,314	66
2007年	3,621	75
2008年	3,519	74
2009年	3,480	66
2010年	4,018	76
2011年	4,681	82
2012年	5,557	96
2013年	6,457	118
2014年	7,837	157
2015年	8,109	164
2016年	9,257	174
2017年	9,903	192
2018年	10,235	198
2019年	10,435	192
2020年	10,012	184
2020年1-4月	3,471	64
2021年1-4月	4,113	75

化粧品香料の国別輸入数量及びシェア(2000年)

(単位 :トン)

国	輸入数量	シェア
英国	577	28.3%
シンガポール	284	13.9%
中国	277	13.6%
米国	239	11.7%
スイス	144	7.1%
その他	519	25.5%
合計	2,040	100.0%

化粧品香料の国別輸入金額及びシェア(2000年)

(単位 :億円)

国	輸入金額	シェア
英国	11	25.6%
米国	6	14.4%
スイス	5	13.0%
シンガポール	5	12.1%
フランス	5	11.5%
その他	10	23.4%
合計	41	100.0%

化粧品香料の港別輸入数量及びシェア(2020年)

(単位 :トン)

港	輸入数量	シェア
東京港	5,792	57.8%
横浜港	3,686	36.8%
成田空港	358	3.6%
神戸港	84	0.8%
その他	92	0.9%
合計	10,012	100.0%

化粧品香料の国別輸入数量及びシェア(2020年)

(単位 :トン)

国	輸入数量	シェア
シンガポール	4,730	47.2%
中国	2,517	25.1%
米国	2,061	20.6%
フランス	187	1.9%
英国	157	1.6%
その他	360	3.6%
合計	10,012	100.0%

化粧品香料の国別輸入金額及びシェア(2020年)

(単位 :億円)

国	輸入金額	シェア
シンガポール	79	42.9%
中国	57	30.8%
米国	17	9.2%
フランス	11	5.9%
英国	8	4.5%
その他	12	6.7%
合計	184	100.0%

化粧品香料の港別輸入金額及びシェア(2020年)

(単位 :億円)

港	輸入金額	シェア
東京港	80	43.7%
横浜港	80	43.2%
成田空港	15	8.3%
神戸港	5	2.6%
その他	4	2.1%
合計	184	100.0%

参考資料:長谷川香料株式会社,「香料の科学」,講談社,2014,238p
塩野秀作,「香りを創る、香りを売る」,ダイヤモンド社,2012,208p

取材協力:日本香料工業会

本資料を引用する場合、東京税関の資料による旨を注記して下さい。

本資料に関するお問合せは以下へお願いします。

東京税関 調査部 調査統計課 TEL:03-3599-6385

貿易統計の数値はインターネットでも検索できます。

財務省貿易統計

検索



東京税関

〒135-8615 東京都江東区青海2-7-11 東京港湾合同庁舎
http://www.customs.go.jp/tokyo/